

## 車の中での子供の安全 —チャイルドシートの正しい装着の普及・促進に向けて—

チャイルドシート  
連絡協議会 高田 暁子

チャイルドシートメーカーとして又チャイルドシートを使用する年齢の孫を持つ者として常々チャイルドシートの必要性を訴え続けてきました。車中で親に抱っこされている赤ちゃんや、運転席と助手席の間に立っている子供、時には赤ちゃんをおんぶしながら運転するお母さんの姿を見るたびに、若し事故に遭ったら、その事故で子供を亡くされたら泣いても泣ききれないだろうと思い胸を痛めていました。因みに平成10年の車中での子供の死傷者数は9500人に達しています。このような状況を改善し子供の安全を守ることがチャイルドシート事業に関連している我々の使命と考えています。

道交法の改正にともなうチャイルドシート着用義務の法制化に至る段階で、適切なチャイルドシートの普及と正しい使用方法を周知・推進し、より安全性の高い“子供の乗員保護”に対する認識を一にした国民的な運動とするため、各関連業者・団体間の開かれた情報交換の場をつくる必要性の声があがりチャイルドシート・メーカー、カーメーカー、輸入販売業者、流通業者、関連行政機関、医療関係者、消費者アドバイザーグループを包含した“チャイルドシート連絡協議会”の設立に鋭意努力した結果平成11年5月25日に正式に発足することができました。

チャイルドシート連絡協議会は広報分科会、教育分科会、製品分科会の三分科会を通じ具体的な活動を推進して行きます。広報分科会ではホームページを開設しチャイルドシートの種類、選び方、自動車の車種とチャイルドシートとの適合表の掲載、教育分科会では誤使用の防止、正しい装着方法の実技指導を全国7地区で行い装着指導員の養成、製品分科会では“子供のシートベルト”としてのチャイルドシートの商品規格基準の統一、機能と誤使用防止、取り付けミス防止等につき各関係者との情報交換・共有をし行動を起こして行きます。

以上の課題を推進していくために、学識経験者、小児科医、産婦人科医、消費者アドバイザーグループの方々のご意見を大いに生かして行きたいと考えています。チャイルドシートの着用が法制化され20年以上が経っているアメリカでも80%のミスユースがあると言われており、チャイルドシートの取り付けの世界標準化による取り付けミスの防止により消費者・使用者の利益に繋がるISOFIXの開発・普及が考えられています。軽量で容易に装着が可能なチャイルドシートの開発・普及に向けて更に努力を続け日本交通医学工学研究会の目指す交通安全に子供の安全の側面から貢献・寄与致したいと念願していますので皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。